

2017・2018

12-1月

はしかけニューズレター

2017年度 第5号 通巻138号

2017年(平成29年)12月1日発行

編集・発行: 滋賀県立琵琶湖博物館 交流担当 (はしかけ担当職員: 戸田・大塚・下松・八尋・大槻・松村
住所: 〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091 電話: 077-568-4811 ファックス: 077-568-4850
電子メール: hashi-adm@biwahaku.jp 琵琶湖博物館ホームページ: <http://www.biwahaku.jp>

(注意) 11月よりメール アドレス および HP アドレスが変更になりました。巻末5-(1)をご確認ください。

～ 目次 ～

1. 期待を集め、“おとなのディスカバリー”進行中
2. 「はしかフェ」のご案内
3. はしかけグループの活動報告と活動予定
 - (1) うおの会 (2) 淡海スケッチの会 (3) 近江はたおり探検隊 (4) 大津の岩石調査隊 (5) 温故写新
 - (6) 暮らしをつづる会 (7) 古琵琶湖発掘調査隊 (8) 湖(こ)をつなぐ会 (9) ザ! ディスカバはしかけ
 - (10) 里山の会 (11) 植物観察の会 (12) たんさいぼうの会 (13) 田んぼの生き物調査グループ
 - (14) タンポポ調査はしかけ (15) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会 (16) びわたん
 - (17) ほねほねくらぶ (18) 緑のくすり箱 (19) 森人 (20) ちっちゃなこどもと自然であそぼう(ちこあそ)
 - (21) 近江 巡礼の歴史勉強会 (22) 虫架け
4. 生活実験工房からのお知らせ
5. その他の事項

会員数	・・・352人
グループ数	22 グループ
(2017年12月1日現在)	

1 期待を集め、“おとなのディスカバリー” 進行中！

～ 大人も楽しめるリアルな空間 ・国内で初めての夢の空間 ～

大人の探究心に応え、学びと発見の場として繰り返し利用される国内博物館では初めての知的空間となります。「しらべるゾーン」では、歴史、民俗、考古をはじめ、植物や動物、岩石や化石など11分野において標本や剥製などの多様な実物資料を手に取ることができ、顕微鏡や図鑑などを使って調べることもできます。また、「実演ゾーン」では、文字だけでは伝わりづらい研究や、学芸員・資料整理員による資料整理、はしかけ・フィールドレポーターなどの活動を実演形式でわかりやすく来館者に伝えます。展示とフィールドをつなぎ、琵琶湖や自然への関心を高め、地域や博物館への活動参加を促します。

(副担当：小林 秀真)

来年7月には、大人の探究心に応える知的空間が誕生します。植物セクションでは、博物館周辺に咲く季節の花や果実を知り、来館者フィールドへ誘うことのできる場を目指しています。フィールドで気になる植物を見つけたら、図鑑で調べることもできますし、顕微鏡を使って調べることもできます。私たちが特に力を入れているのは、この空間がはしかけ・フィールドレポーターの活動を発表できる場として、また、来館者と交流を深める場として利用できるようにすることです。現在、いくつかのはしかけのメンバーと相談しながら、来年のリニューアルに向けて準備を進めています。来年はこの空間で「学びと発見」を実感していただければと思います。

(植物担当：大槻達郎)



おとなのディスカバリーの完成予想図

2. 「はしかフェ」のご案内



第5回目は 12/20 (水)
「広がる交流活動の可能性を考える」

ぜひご参加ください!!

こんなはしかけ会員のみなさんにおすすめ

- ・もっと活動、発信の場が欲しいグループ
- ・はしかけ登録したけれど、具体的に何をしようか悩んでいる方
- ・新しいグループを作りたい方。
- ・びわ博の交流活動に要望のある方
- ・びわ博でのいろいろなイベントを一緒にやってみたい方
- ・他のはしかけさんや学芸員と交流したいと考えている方

10月15日(日)、はしかけ登録講座に合わせて第4回はしかフェをオープンしました。多くの方に参加いただきありがとうございました。テーマは、小グループ向け体験展示空間「わくわく体験スペース」。新たな展示室の使い方について説明し、意見交換しました。その後はフリートークとなりました。ベテランはしかけさんと新人はしかけさんがこれからの活動について活発に話し合う良い時間が過ごせました。

次回、第5回はしかフェでは、子どもと大人が一緒に楽しむ「ディスカバリールーム」がどのように新しくなるのか紹介します。また、新しくできる展示をはしかけ活動でどう使うことができそうか、一緒に考えていきたいと思います。

「はしかフェ」は、はしかけ会員であれば誰でも自由に参加でき、様々な意見を出し合って、一緒に新しいことにチャレンジしていくための場です。この機会を使って、カフェでくつろぐような雰囲気の中で、普段会わない違うグループのはしかけの皆さん同士の間にも交流が生まれればうれしく思います。是非、お気軽にお越しください。



対 象 : 2017年度はしかけ登録者

日 時 : 12月20日(水)14:00~

場 所 : 生活実験工房

内 容 : ディスカバリールームの概要説明、博物館での交流と活動についての悩み事 + 雑談

参加方法 : 当日参加OK (ご参加を予定しているかたは、事前にご連絡ください)

担 当 : はしかフェ事務局 妹尾

連絡先 : 電子メール: hashi-adm@biwahaku.jp 電話: 077-568-4811

【活動予定】

- ① 12月20日(水) ② 3月11日(日) (はしかけ登録講座開催日)

※予定は、変更になる場合があります。

(妹尾裕介)

3. はしかけグループの活動報告と活動予定



(1) うおの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 36名】

グループ代表アドレス : hashi-uonokai@biwahaku.jp

グループ担当職員 : 松田征也

【活動報告】

■9月9日(土)

三重県総合博物館 MieMu 見学会

参加者 12名

三重県総合博物館 MieMu の見学会を実施しました。ここは2014年に移転開館した、とても綺麗な博物館です。始めに学芸員の方にバックヤードを案内頂きました。整理中の古い標本や、飼育水槽に食いつく会員たち。収蔵庫では、ここだけで一日過ごせそう、との声も。搬入用の巨大なエレベーターで展示室のある3階へ移動。繊細な展示物を運ぶため、全く振動を感じないエレベーターでした。

常設展示は魚類の展示こそないものの、地学、人文、自然、と充実した展示を、解説を交えて見学しました。感想や意見を書き込むコーナーがあったので、すかさず「水族展示求む」と記入。一番気になったのは、伊勢詣りの展示コーナーにあった饗応料理「御師御膳」に、尾頭羽毛付きのシギリしき鳥がそのまま乗っていたこと。皆さんと色々話しましたが、結局どういうことか分からず。(誰か知りませんか?)

見学後にはMieMu ミュージアムパートナーの皆さんの活動紹介と、互いの活動やフィールドについて、情報交換の時間となりました。採集、記録だけでなく、標本作成から登録まで実施されていると聞き、うおの会も2000年代前半には標本を作成していたので、今の時代の標本を残す必要があるのではないかと、との声が会員からあがりました。

レベルの高い活動、それを支える熱意、滋賀とは異なるフィールドの情景など、とても刺激を受けた一日でした。快く受け入れて下さった学芸員の皆さん、ミュージアムパートナーの皆さんに、深く感謝です。

(報告 中尾博行)

■9月17日

第129回調査(日野川)

台風、降雨の影響により中止

■10月7日(土) 9時~12時半

イタセンネット見学会

場所: 淀川・城北ワンド

参加者: 13名

春に続き、淀川での「イタセンネット」の活動に参加しました。毎回恒例という全員の自己紹介後、うおの会会員も前回同様ワンドに入り、地曳き網で魚を採集します。1か所目の網が絞られて来た時、早々に「イタセンパラ!」の声が! 次々と婚姻色が出たイタセンパラが姿を見せます。数回の地曳き網で、イタセンパラ、カネヒラ、シロヒレタビラ、ヨドゼゼラ、コウライモロコ、カワヒガイ、タモロコ(ホンモロコ並みにスマート!)、モツゴなどが採集されました。

イタセンパラは一部を水槽に入れて頂き、じっくりと観察&撮影タイム。婚姻色は他のどのタナゴ類とも違う、独特の美しさです。ここぞとばかりに連写で撮影する人、動画で撮る人、正面から「顔」を撮る人などなど。十分にその姿を堪能したあとは、前回同様、菅原城北大橋に上がり、高田副会長(イタセンネット副会長!)から眼下の城北ワンドの成り立ちや近年の状況などを説明頂きました。

今年はイタセンパラの数が多いそうで、そのぶん、体サイズは小さめとのことでした。10年ほど前に絶滅しかけたというのが嘘のように、ほとんどが秋の繁殖後に死んでしまう一年魚であることから、外来魚駆除やワンドの管理など、人の関わりが無ければ再び絶滅に向かう可能性が大きい魚です。イタセンネットの活動が今後も継続できるよう、応援して行きたいと思いました。今回参加できなかった方も、イタセンネットは「来る者拒まず」とのことなので、是非参加してみてください。

なおイタセンネットのブログにて、当日の様子が紹介されています。うおの会の集合写真もありますので、ご覧ください。

(報告 中尾博行)

■10月15日(日) 10時~14時 第130回定例調査報告 調査地：安曇川中上流 参加者：11名

あいにくの雨の朝でしたが、集合時間にはほとんどやみ、これはいけるかもと一瞬 思いましたが、やはり調査を始める頃にはぽつぽつと雨が降り出しました。久しぶり のカップ着用での調査となりました。

本日は3班構成で、3人の若手の班長が活躍してくれました。調査場所は、1班は、安曇川の大津市北部付近から久多川あたり、2班は旧朽木村北西部の北川・麻生川、3班は旧朽木村南西部の針畑川を担当しました。

見つかった魚は、タカハヤ、カワムツ、カジカ、ドンコ、ヨシノボリ、イワナ、アマゴ、スナヤツメなどでした。各地点でたくさんのアカハライモリがみられます。(報告：水戸基博)

【活動予定】

■12月17日(日) 第132回定例調査 犬上川

■1月21日(日) 勉強会



(2) 淡海スケッチの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 4名】

グループ代表アドレス: hashi-sketch@biwahaku.jp

グループ担当職員: 篠原徹, 榎永一宏

【活動報告】

■9月24日(日) 場所：葛川(大津市)

参加者：4名

明王院、かや葺の家周辺にて吟行。

朽木に場所を移し、ざるそばに舌鼓を打った後、丸八百貨店で栃餅入りのおぜんざいをいただきながら句会(3名)。

丸八百貨店付近の家並みのスケッチ(1名)。

■10月22日(日) 水ヶ浜(近江八幡市)

台風21号の為中止

【活動予定】

■12月10日(日)

ミーティングをしながら懇親会を兼ねて、近江の食材を味わう予定です。

※初めて参加を希望される方は、080-5709-8634(金山)までご連絡ください



(3) 近江はたおり探検隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 15名】

グループ代表アドレス: hashi-oumihataori@biwahaku.jp

グループ担当職員: 渡部圭一

【活動報告】

織姫の会

■9月30日(土)

参加者:5名

地機にかけていた手ぬぐいが織りあがりました。経糸に工房で育てた伯州綿と南京綿(茶綿)を使い、緯糸にはそれぞれが紡いだ糸を使いました。のりが効いているのでまだ固いですが、洗うと柔らかくなりそうです。

■10月11日(水)

参加者:2名

前回織り上げた地機には、大津市田上の野良着を復元した糸をかけることにしました。その内のひとつ、茶綿と藍染めの糸を撚り合わせて、トイトを製作しました。織り上げると細かい縞のような模様ができる予定です。

■10月28日(土)

参加者:3名

地機用の野良着のデザインを決めました。柄から計算したところ、経糸の藍染め糸が3分の1足りないことが判明。12月に藍染めに行くことにしました。

■11月18日(土)

参加者:5名 JICA 研修生:10名

JICAの研修で、はたおり探検隊の活動を紹介し、植物としての綿から糸を作る工程を体験していただきました。みなさん未体験だったそうで、ワタクリ機により種とり、綿打ち弓による綿打ち、スピンドルでの糸紡ぎなど、熱心に作業していただきました。地機での機織りの実演では、一枚の服を織るのにどれぐらいかかるのか、スピンドルで作った糸から織るまでの工程はどれぐらいかなどの質問がでました。

【活動予定】

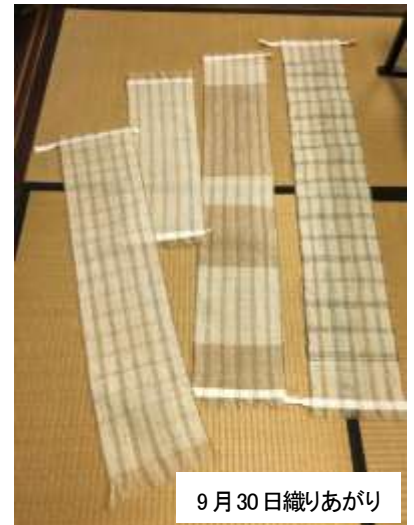
■織姫の会

12月9日(土) びわたんと共催「綿に触れてみよう」、23日(土)

■その他

12月1日(金) 10:00～ 湖南省下田の紺喜さんで藍染め

(辻川智代)



(4) 大津の岩石調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 10名】

グループ代表アドレス: hashi-ganseki@biwahaku.jp

グループ担当職員: 里口保文

【活動報告】

■10月15日(土) 9:55-16:00

場所: 田上山付近

案内者: 中野

参加者: 10名

- (1) 調査におけるポイント: 著名な「中沢晶洞」の調査・体験をすること。晶洞の大きさの体感、母岩とペグマタイトの境界部の観察、ズリにて巨晶帯の鉱物観察
- (2) 概要: 案内者は中野さん(本会顧問)。あいにくの雨であったが、石山駅に集合、瀬田川の砂防等も昔から担当してきた琵琶湖河川事務所にて、見学し、資料を頂いた。

次に田上山に向かう。田上山への入山には、ゲート内への立ち入り許可が必要で、特にこの時期は松茸山入山のための許可・手続きが必要なので、事前に案内者の中野さんによって手続きが行っていただいていたため、調査をすることができた。入山後、途中の「熱水変質脈それとも断層粘土脈？」とも思われる地点の説明をいただき、その調査をした。さらに倒木などもある林道を進み、展望の広がる場所に出た。そこで砂防工事等の経緯などの説明を受けた。残念ながら雨と霧で展望は良くなかった。大きな倒木が林道を塞ぐところで下車し、そこから、上下雨合羽を着用し、中沢晶洞を目指した。地図上では近いとも思われたが、林道から谷川に下り、そこを越えて、次の色んな石が散在する谷を遡上し、その後、非常に急なズリ場を登って、ようやく晶洞に到着した。晶洞は予想外に大きく、雨をしのぐためにこの中で全員昼食を取った。なお、この晶洞はかなり巨大なものとして有名だが、昔は今ほど大きくはなかったが、鉱物に興味がある人が掘り、大きくなったとのこと。中野さんから色んな説明を受けた。またいつものように色んな質問があり、色んな意見が出された。

食事の後、洞窟の前のズリ場で石を探す人、洞窟の中の岩脈の調査をする人等、思い思いの調査をした。時間が過ぎるのはあっという間で、洞窟内やズリ場などのもとからあったゴミも含めて総て持ち帰った。雨のズリ場を下るのはそれなりに大変であったが、スリップ防止の具体的な注意もあり、里口さんがしんがりを務め、迷わずに全員無事に急坂を下り、谷川を渡り車に到着し、石山駅で無事解散した。このころには雨も上がった。

【活動予定】

■12月の予定 後日連絡



(5) 温故写新

【活動報告日の活動会員数(のべ) 10名】

グループ代表アドレス: hashi-onkosyasin@biwahaku.jp

グループ担当職員: 金尾

滋史

【活動報告】

■9月24日(日) 9:00~16:00 おでかけ撮影会 ~能登川・伊庭の風景編~ 参加者:10名

日本遺産「琵琶湖とその水辺景観」のひとつとして構成されている能登川町伊庭を訪れ、その町並みや街中の水路を巡って撮影をしました。暮らしの中での水の関わりが各所にみられ、様々な風景を記録することができました。

■10月、11月の活動は都合や天候により中止となりました。



【活動予定】

■12月16日(土) 9:30~12:00 博物館会議室

写真の撮影講座 Part4。

今回の講座は写真撮影のコツ、画像の仕上げ方に加えて、昨今話題になっている、著作権、肖像権など写真のもつ権利や撮影時や公表時に気を付けないといけないことなどについて、みんなで勉強会をしていきたいと思います。他のはしかけグループの方々のご参加も大歓迎ですので、この機会にぜひお越しください!!

資料の準備などがありますので、参加される方は、
金尾学芸員 (kanao-shigefumi@biwahaku.jp) までご連絡ください。

温故写新では、皆様からのご依頼があれば、博物館主催行事やはしかけグループ活動での記録写真などの撮影協力を行ないます。必要な方は温故写新担当学芸員(金尾)へご連絡ください。ただし、メンバーの日程の都合上、ご協力できないこともありますので、ご了承ください。



(6) 暮らしをつづる会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 名】

グループ代表アドレス: hashi-kurashi@biwahaku.jp

グループ担当職員: 渡部圭一

【活動報告】 活動がありませんでした。

【活動予定】 未定です。



(7) 古琵琶湖発掘調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 42名】

グループ代表アドレス: hashi-hakkutsu@biwahaku.jp

グループ担当職員: 山川千代美

【活動報告】

■9月16日(土)～9月30日(土) 多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト 第五次調査に参加 場所: 多賀町四手 参加者: 42名

2013年から継続的に行われている「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト」が今年も行われることになり、第五次発掘調査に古琵琶湖発掘調査隊も参加しました。多賀の発掘に参加するのは今回が初めてというメンバーも多かったのですが、メンバーそれぞれが多賀での発掘調査に一生懸命取り組みました。

発掘期間中の休憩時間には、連日、日替わりの内容で専門班の先生方による多彩な勉強会が開かれていました。多賀町発掘お助け隊の方々や専門班の先生方と一緒に、リラックスした雰囲気の中勉強会が行われ、質問や発言が途切れることがない位、熱心に聴きました。また、発掘現場で行われた一般の方々向けのイベントなどにもスタッフとしてお手伝いをしました。

古琵琶湖発掘調査隊では、8月に行った「微小な化石の水洗抽出実習」で学んだことをいかして、多賀の発掘現場の土から微小な化石を水洗抽出するために、多賀町立博物館さんや専門班の先生方のご協力もいただきながら多賀の発掘現場の土を採集させていただきました。発掘現場のどのあたりの土を、どのように採集するかが、水洗抽出に向けての第一関門だったのですが、メンバーと一緒に考え、協力しながら、層準ごとに土を採集することができました。

今後は継続的に、多賀の発掘現場で採集した土からの微小な化石の水洗抽出にも取り組んでいきたいと思っています。

【活動予定】

■11月26日(日) 多賀の発掘現場で採集した土からの微小な化石の水洗抽出(第1回)



(8) 湖(こ)をつなぐ会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ代表アドレス: hashi-ko-tunagu@biwahaku.jp

グループ担当職員: 林竜馬

【活動報告】

しばらく活動はなしでした。次回活動予定の12月10日は、第2期のリニューアルが始まり、ディスカバリールームが閉室になります。ディスカバリールームで遊べなくて残念がっている子どもたちとアトリウムで楽しく交流したいと思っています。

【活動予定】

■12月10日(日) 13:00 交流室2集合 紙芝居上演





(9) ザ！ディスカバはしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 8 名】

グループ代表アドレス: hashi-discov@biwahaku.jp

グループ担当職員: 澤邊久美子, 森智美, 片淵綾香

秋はプログラムがたくさんありました。毎年恒例になった飛ぶタネのプログラムは、今年は2回実施してたくさんの来館者に参加してもらいました。小さな子も多かったですが、お兄ちゃんおねえちゃんや大人のひとと一緒に作ったタネをじょうずに飛ばすことができました。2階からクルクルと落ちてくるタネを、みんなうれしそうに追いかけていました。

いよいよ、2017年12月1日からディスカバリールームがリニューアル工事のために閉室します。その間も楽しいプログラムを計画中です！

新しいディスカバリールームって、
どんなかな～？



【活動報告】

活動内容	実施日	タイトル	内容
準備	10月14日	飛ぶタネの準備	飛ぶタネを飛ばそう(10月)に使う材料を準備しました。 (参加者: 1名)
登録講座	10月15日	はしかけ登録講座	はしかけグループの活動紹介
はしかけイベント	10月29日	飛ぶタネを飛ばそう!	秋にはたくさんのタネが実ります。風に乗って飛ぶタネを観察して、模型を飛ばしてみよう! 参加者25名+保護者 (参加者: 4名)
はしかけ活動	11月22日	障子の張り替え	リニューアル前最後に、台所の障子の張り替えをします。 (参加者: 1名)
ディスカバ補助	11月25日(土)	「はたきを作ろう!」のサポート	毎年恒例はたき作り。今年はディスカバ閉室前の最後の掃除。参加9組(予定) (参加者: 2名)

～メンバーからのメッセージ～ Vol.39 ～

秋に実施する予定のタネを飛ばそうは、昨年初めて実施してとても好評でした。アトリウムから実際に飛ばしてみると、みんなが作った種の模型がひらひらと落ちてくる様子が観察できて、とてもきれいでした。今年もたくさんのタネを飛ばしたいと思います。
(澤邊)

【活動予定】

活動内容	実施日	タイトル	内容
準備	12月11日(月)	イベント準備、練習	お手玉の準備をします。
はしかけイベント	1月8日(月祝)	お手玉作り	工房で育てたジュズダマとハトムギを使って、お手玉を作ります。針と糸で縫ってみよう。

ディスカバリールームで「こんな楽しいことしたい!」などアイデア・提案があれば、お気軽に澤邊またはディスカバスタッフまで声をかけてください。いつでもお待ちしております!

新しいメンバーも大募集中です。一緒に楽しい発見(ディスカバ)してみましよう!





(10) 里山の会

【活動報告日の活動会員数 35名】

グループ代表アドレス: hashi-satoyama @biwahaku.jp
(登録会員数 : 39 名)

グループ担当職員: 山本綾美

【活動報告】

■10月9日(月祝)

里山体験教室下見

参加者 : 9 名

活動拠点の野洲市大篠原の里山に、1週後に開催する里山体験教室の下見に行きました。まずは、はしかげの森の中で打合せ。当日の流れを確認した後、散策コースの下見を行いました。どんな木の実がなっているか、植物や、生き物の状態を確かめました。栗の実、アケビ、夏ハ



ぜ、シャシャンボ、ムカゴなど食べられる秋の実がたくさん確認できました。これならみんな喜ぶぞ!と嬉しくなりました。現地確認後、当日の注意事項などを話し合い午前中で解散しました。



■10月15日(日)

里山体験教室 本番

参加者 : 22名

あいにくの雨。。しかし、主催者側としては、雨の里山は美しく、そして意外と楽しいということを味わってほしいという思いから、開催決定!つわもの家族が参加してくださいました~♪



早速、秋の散策スタート!ビニール袋を持って、午後のネイチャークラフトの材料を収穫しながら歩きます。はしかげさんの案内で、色々な植物を紹介しながら歩きます。いろんな木の実に子どもも大人も興味津々!そのうえ、アケビの実を大量にゲット~



「重い(汗)」というほど一杯になっていました。お昼ははしかげ里山の会特製、「キノコ汁」を作って温まりました。アケビの皮の天ぷらも召し上がれ! お昼の後には、少しだけクラフトをしましたが、やっぱり雨が強いので、寒くなり残念でしたが途中までの活動にしました。

参加者の皆さんが、雨の散策がとっても楽しかったと言って下さり、やって良かったと思いました。

■11月19日(日)

はしかげの森で植樹

参加者 : 2名

家で育てたドングリの苗木を五本、はしかげの森の奥の空きスペースに植えました。焚き火なども楽しめました。今年は、あちこち紅葉がきれいです。野洲のフィールドも紅葉がきれいです♪。柳原



■11月19日(日)

お出かけ秋の里山遊び

参加者 : 15名

甲賀町で実施された甲賀木の駅プロジェクト主催の『竹まつり』にはしかげ里山の会として、参加してきました。はじめに竹林整備の方法やコツなどの説明があり、竹伐り体験の後、切った竹で、竹食器を作りました。お昼はそれを使って、カレーと竹パンを食べました。お昼の時には、参加している各団体の活動紹介があり、そこで、はしかげ里山の会の活動報告もしました。午後は、竹テントの説明や竹チップと竹炭の生産実演があり、とても勉強になりました。甲賀地域の方々とも交流できて、とても楽しい一日になりました。



【活動予定】

- 12月10日(日)ソバ脱穀 年末反省会
- 1月14日(日)里山体験教室(冬)下見
- 1月21日(日)里山体験教室(冬)本番



(11) 植物観察の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 14名】

グループ代表アドレス: hashi-shoku-kan@biwahaku.jp

グループ担当職員: 芦谷美奈子

台風が過ぎ去り、山々が色づく季節となりました。中には、色づくまでに強風で葉が吹き飛んでしまった樹もあり、例年のような紅葉が見られるのかなぁと思っています。

この会は、月に一度の集まりですが、毎回、植物の話をしながら楽しい時間の過ごせる会になってきています。

【活動報告】

■10月1日(日)

参加者: 5名

各自が持ち寄ったもの(トリカブト、アケボノソウなど)と芦谷先生に採ってきてもらった水草(ミズアオイ、アサザ、ミズオオバコ)を観察しました。

前半は、トリカブトの花を分解しながら、「保育社『花と昆虫がつくる自然』田中肇 著」で「・・・5枚の紫色のガク片が、大きな袋状の花をつくっている。花の上部には兜(かぶと)のような形のガク片があり、その両側を2枚のガク片が兜の耳垂れのように左右を守っている。そして、・・・」(引用)を読み、ひとつひとつ「これだ!」とみんなで実態顕微鏡を覗きました。特に、帽子のようになった部分に隠れている蜜腺の形がおもしろく、こんな所に蜜を溜めて本当に虫たちはたどり着けるのかと疑問でした。

後半は、滋賀県でも珍しくなってしまったというミズオオバコやミズアオイの花を見せてもらいました。柔らかい薄い花弁なので標本にするのも難しいとのことでした。また、アサザの短花柱花(たんかちゅうか、雄しべが長く雌しべが短い)と長花柱花(ちょうかちゅうか、雌しべが長い)があることを教えてもらい、自家受粉を避けるための植物の知恵と不思議さに驚くばかりでした。

水草の多くは、冬にかけて枯れて葉が無くなるものが多いということなので、次回の水草の勉強会は、来年の5~7月頃になる予定です。

11月5日(日)は、参加者8名、地球市民の森へ「お出かけ観察会」。講師として布谷先生に来て頂きました。快晴に恵まれ、ゆるゆると歩きながら目に着くものを講師先生に質問しながら観察しました。時速30m?・・・。



トリカブト



アサザ

【活動予定】

- 12月3日(日) 「博物館の周りを観てみよう②」 雨天、強風の場合は、持ち寄ったものをみます
場所：琵琶湖博物館 実習室1 or 2 時間：13:30～16:00
- 1月14日(日) 未定

★ 参加者募集中 ★

月に1回、第1日曜日の午後を予定しています。遠出の場合は、これに限らず、変則的になります。外部で行う観察会は、年に数回、みなさんにも呼びかけを行う予定です。このニューズレターを見て、直接現地へお越しください。基本的には、危険が無く雨でも歩ける所で、大雨や警報が出ない限り「行く」方向でいます。

この活動に興味のある方は、メール (hashi-shoku-kan@biwahaku.jp) にてご連絡ください (ˆoˆ)/
当日、直接、実習室へ来ていただいても結構です。



(12) たんさいぼうの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 22名】

グループ代表アドレス: hashi-keisou@biwahaku.jp

グループ担当職員 影の会長: 大塚泰介

【活動報告】

■10月9日(月・祝) たんさいぼうの会第54回総会

草津市まちづくりセンターで行いました。7人が参加し、それぞれの研究棟の進捗状況を報告するとともに、11月5日の山門湿原調査の計画などを話し合いました。

■10月14日(土) 15日(日) 日本珪藻学会第37回研究集会

福井県三方青年の家に、影の会長を含めて5名が参加しました。ただし今回は、たんさいぼうの会会員としての研究発表はありませんでした。なお、その裏で行われていた「はしかけ登録講座」で、新たに1名の新入会員を迎えました。

■11月5日(日) 山門湿原調査

今回の調査は「琵琶湖の小さな生き物を観察する会」との共同調査で、たんさいぼうの会としては実に11年ぶりの山門湿原調査でした。はしかけ6名、学芸員2名の計8人で、11年前と同様に「山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会」の藤本秀弘さんのご案内の下、湿原内の6地点でミズゴケなどのサンプルを採集しました。今回は珪藻だけでなく、ツツミモ類など他の微細藻類や、付着性ワムシ、イタチムシなども、皆で手分けして調査していく予定です。

会員は現在、各地の湿原の珪藻の写真撮影を進めています。瀬田公園(大津市)および藤ヶ鳴湿原(岡山市)の珪藻については、すでに一通りの写真撮影を終え、同定にとりかかっています。久美浜の化石珪藻のサンプルについても、おおまかな同定まで完了しました。愛知の湧水湿地群の珪藻についても、写真撮影がかなり進んできています。今後も、主役(主著者)を交代しながら、1つずつ確実に論文にしていこうと思います。

【活動予定】

■1月 たんさいぼうの会第55回総会を開催します。日程は調整中です。

Lyngbya wollei (ごはんですよ) の付着生物および、山門湿原のミズゴケ付着生物について、分担を決めて調べていきます。

その他、引き続き個々の担当の顕微鏡写真撮影・整理・同定などを進めていきます。



山門湿原で多く見られたツツミモ類 *Netrium* の一種。



(13) 田んぼの生きもの調査グループ 【活動報告日の活動会員数(のべ) 5名】

グループ代表アドレス: hashi-tambo@biwahaku.jp

グループ担当職員: 鈴木隆仁

秋の長雨と大型台風の影響。秋を楽しむチャンスはほとんどなく、冬がすぐそこまで来ています。急に寒くなると、泥のお布団の中で寝ているであろう生き物たちがなんだかうらやましくなりますね。

【活動報告】

■10月29日 調査サンプルの同定会3回目 場所: 博物館実習室 参加者: 5名

今年3回目の同定会はお天気のせい参加者が少なく、少数精鋭(?)での活動となりました。前2回の同定会でやり残したサンプルは多くはないものの、ほとんどがカブトエビが大量に詰め込まれた瓶です。瀬田・石山地区ではアメリカカブトエビとアジアカブトエビの勢力争いが進行中。同じ田んぼで両者がせめぎあっている場所もあるので、同定は慎重を期します。その同定がまた難しい。アルコール固定で丸まっている(へたくそなエビ天を想像してください)カブトエビの、尾っぽの先端のトゲを見るんです。サイズも色目も若干違う両者ですが、決め手はトゲの大きさと向き。一つの田んぼから最低10匹は集めますから、それらをシャーレにばらまいて1匹ずつ確認です。ここで一番頼りになるのは、古参の前田さん。みんな、自信が無い時は前田さんと呼んで、チェックしてもらいました。そうこうしているうちに、すべてのサンプルの同定がやっと終了しました。後片付けを済ませるとすでに5時。調査結果のまとめは代表の山川さんに託されました。

【活動予定】

今年の調査結果の報告会は来年1月の予定です。日時はまだ決まっていません。会員の方は今後送られる日程アンケートのメールにお返事を下さるようお願いいたします。(石井千津)



(14) タンポポ調査はしかけ 【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ代表アドレス: hashi-h-tanpopo@biwahaku.jp

グループ担当職員: 芦谷美奈子

今年のタンポポのシーズンは終了しました。グループとしての活動は、あまり展開できませんでしたが、来年のシーズンに向けて準備をしようと考えています。調査だけに特化するのではなく、タンポポそのものを楽しむグループでもありたいので、名称の変更を検討しています。

<タンポポ調査はしかけ、継続活動中! 次の調査までは、突っ込み型の取組みをしていきます!>

「タンポポ調査はしかけ」は、「タンポポ調査・西日本 2015」というタンポポの参加型広域調査に協力しながらタンポポについて学ぶことを目的に作ったグループです。この「タンポポ調査・西日本」は、5年ごとに開催される広域の参加型調査で、2020年も実施される予定です。

2015年の調査は終了しましたが、2020年の調査をより充実した内容の濃いものにするために、「タンポポ調査はしかけ」の活動は継続しています。2020年の調査までに、広域調査の調査方法では調べることができない、タンポポの種類ごとの生態や、分布と環境との細かな関係性など、つつこみ型の調査や勉強をしていこうと考えています。

<2015年の調査の結果を掲載したチラシ、報告書をご希望の方はお知らせください!>

「タンポポ調査・西日本 2015」の報告書および結果チラシをご希望の方は、上記アドレスあるいは芦谷まで直接お尋ねください。チラシを配布したいなどのご希望も、遠慮なくお知らせください。

<引き続きメンバー募集中! 既存メンバーについてはMLを見直します!>

今回の調査(2019年予備調査、2020年本調査)を視野に、活動しております。このはしかけグループでは、短期間

の分布調査だけでは明らかにできないタンポポの疑問を、少しでも解決したいと考えています。開花期間が短いので、1年の活動は4カ月ほどになるかもしれませんが、興味のある方の参加を引き続きお待ちしております！現在のメーリングリストを見直して、新たに連絡体制を整えたいと思います。メーリングリストに入れて欲しいというご希望の方は、上記アドレスまで連絡をください。こちらから改めて連絡をとらせていただきます。

【活動報告】

■10月と11月は、特に活動はありませんでした。

【活動予定】

■来春タンポポのシーズンになったら、勉強会や観察会などを開催する予定です。予定が決まり次第、ニューズレターとメーリングリストでお知らせします。



(15) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 5名】

グループ代表アドレス: hashi-bck@biwahaku.jp

グループ担当職員: 大塚泰介

【活動報告】

■10月8日(日)

参加者: 4名

今回は琵琶湖のプランクトンの観察とワムシの咀嚼板の観察を行いました。午前には湖岸で採集を行い顕微鏡でプランクトンの観察を行いました。メンバーそれぞれが興味のあるプランクトンが違うので今まであまり気にしていなかった生き物について教えてもらえることも多く勉強になりました。午後はワムシの咀嚼板の観察を行いました。



プランクトン観察の様子



ワムシの咀嚼板

左: ドロワムシ属の1種

右: ヒルガタワムシの仲間

■11月5日(日)

参加者: 1名

たんさいぼうの会と合同で山門水源の森の湿地で調査を行いました。山門湿原では山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会の方に案内していただき6か所のポイントで採集を行いました。活動中、参加者の方々からいろいろと生き物について教えてもらう機会がありとても楽しい1日でした。持ち帰った生サンプルから固着性のワムシを探したところ2種類が見つかりました。



湿地内にはオオミズゴケが多く生育していました



サンプル中にいた固着性ワムシ

【活動予定】

■以降の開催日については未定です。

*琵琶湖の小さな生き物を観察する会では月に1回、観察会を行っています。
見学・参加希望の方はグループ代表アドレスまで、お問い合わせください。



(16) びわたん

【活動報告日の活動会員数(のべ) 69 名】

グループ代表アドレス: hashi-biwatan@biwahaku.jp

グループ担当職員: 奥野知之, 小林偉真

10月のわくわく探検隊では、C展示室を利用して骨の構造を観察したり骨に触れたりしながら、プラ板を作るというとても楽しい活動を行うことができました。また、11月のわくわく探検隊では、屋外展示で色づく葉を集めて、簡単な標本を作る活動ができました。

【活動報告】

■10月14日(土) 「骨にふれてみよう！」

今回は、「なにわホネホネ団」とのコラボ企画ということで、西澤博士をお招きして骨についてお話を聞きました。

骨のある動物の紹介や骨の観察を通じて、普段なかなか触れることのない動物の骨に触れることができました。骨の標本の扱い方を詳しく聞くことができ、参加者の皆さんは慎重に骨に触れていました。

参加者:32名



つぎに、C展示室の「生き物コレクション」にて、博士から出された4つの課題(シカの角・ビワコオオナマズの口・カワウのくちばし・イシガメの甲羅)に挑戦しました。

展示されている標本から、角の生え方や口・くちばしの形をスケッチしました。イシガメの甲羅は、フロアに横になりながらでないと観察することができず、参加者はとても苦労してスケッチをしていたのが印象的でした。

観察後には、実習室に戻ってプラ板を作りました。動物の骨格が描かれたカードにプラ板を重ね、油性マジックでなぞり、オーブンで焼きました。骨格カードは滋賀県や琵琶湖、琵琶湖博物館に因んだもので、ビワコオオナマズやニホンジカなど9種類の中から好きな物を選び、プラ板にしました。オーブンで焼いた後にストラップを付けて完成させました。骨の話や観察、プラ板作りを通して骨についての深く学ぶ機会になったのではないかと思います。びわたん(こぼやん)

■11月11日(土) 「秋の色探しをしよう」

今回は、秋空のもと屋外展示を利用する活動を行いました。参加者は、37名で、活動のねらいは葉っぱが色づくことを知り、秋の訪れを感じることです。

まず、博士から紅葉するとはどういうことかについて質問があり、親子で考える時間がありました。そのほか、観察のポイントを教わりました。ポイントは、『同じ形でも色が違うものがあること』『同じ色でも違う形があること』です。



参加者:37名

つぎに、実際に屋外に出てポイントを意識した観察と葉っぱの採集を行いました。親子で話しながら活動する様子が印象的でした。子どもたちはどうして赤くなるのかについても色々博士から教わることができました。

最後に、実習室に戻り採集した葉っぱを標本にする活動に取り組みました。色が変わり始める様子がわかる葉っぱや気に入った葉っぱをならべ、親子で協力して取り組むことができていました。最後の振り返りでは、博士から教わったことを発表する姿が見られ、素晴らしい取り組みだと感じました。
びわたん(おんちゃん)

【活動予定】

- 12月9日(土) 「綿にふれてみよう！」
- 1月13日(土) 「お魚モビールをつくろう！」



(17) ほねほねくらぶ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 9名】

グループ代表アドレス: hashi-hone-hone@biwahaku.jp

グループ担当職員: 松岡由子, 高橋啓一

【活動報告】

- 10月14日(土) わくわく探検隊のプログラム「骨に触れてみよう！」に参加 参加者: 4名

今回のわくわく探検隊は大阪自然史博物館のなにわほねほね団の団長さんが講師役でプログラムをされるとの事で、ほねほねくらぶも今後の活動の参考にすべく、見学とお手伝いをさせていただきました。

いざ参加させていただくと、準備から本番まで、始終関心しきりで、大変貴重な時間がすごせました。

団長さんのプログラムの進行や構成に、工夫や経験の豊富さが伝わってきて、一朝一夕では同じことができるとは思えませんが、ほねほねくらぶも出来ればこのようなプログラムを行えるような活動を行っていきたいなと思わせてもらいました。

プログラムに参加しておられたお子さんの参加者が、骨の標本をのぞき込むために地面に寝そべって一生懸命、観察している姿がとても印象的でした。



- 10月15日(日) はしかけ登録講座内での活動紹介 参加者: 1名

- 10月29日(日) 台風接近のため活動を中止しました。

- 11月11日(土) カルガモの解剖、イタチの解剖、カラスの骨のクリーニング 参加者: 4名

【活動予定】

- 12月の詳しい活動日は現在未定ですが、

* 月に2回程度、土曜日・日曜日に活動を予定しております。



【活動報告】

■9月18日(月)午後 次回の活動と藍の葉っぱ染めについての意見交流 場所: 生活実験工房 参加者: 6名

年間計画で11月に朽木の森にて植物観察会を実施するため、詳細を打ち合わせしました。それと藍の葉っぱ染めについて、メンバーと交流しました。葉っぱ染めは、布地に藍の葉っぱを置いて、その上からビニールやラップなどを敷き、ハンマーで叩いて葉っぱの形を布地の写す方法です。藍は、今年3月にタネをまいたのですが、博物館にまいたタネは、芽がでたものの、なくなってしまい(多分、虫に食べられた様子)、メンバーが家に持ち帰ってプランターにまいたものは大きく成長しました。その成長した藍で、葉っぱ染めを試みましたが、きれいに染まなかったため、メンバーで意見交流を行いました。

参加できなかったメンバーからも、後ほど意見を頂きました。

- *100均で買ったキャンパス地は染まり難いのは?
- *一度洗ってから染めてみては?
- *染める前に牛乳などのタンパク質を含むもので、洗ってからやると、染まりやすい。
- *藍の収穫時期なども考慮する。
- *水分をしっかりと含んでいる葉っぱの方がよいのでは?
- *葉っぱの叩き方を変えてみては?
- *基本染料は絹が付きやすい。
- *生地になイロンが入っているものは染まらない。
- *叩き染めをしている時、空気に晒さないようにする。

これらの意見を参考に、また来年、チャレンジできたらよいなあと思います。



うまく染めるために、みんなで
試行錯誤。いろいろな意見が出て、
よかったです。

■11月19日(日) 9:00(集合) 朽木の森で植物観察会 場所: 高島市朽木の森 参加者: 8名

今回は高島市朽木麻生にある、森林公園「朽木の森」にて植物観察会を行いました。あいにく、今年1番の冷え込みが予想される日であったため、しっかりと防寒対策をしていきました。朽木の森については、思っていたよりは寒くなく、天候も小雨がふったりもしましたが、時折、晴れ間もありよかったです。

この時期は、紅葉がとてもきれいでした。いろいろな紅葉についても、琵琶湖博物館の草加先生、大槻先生に教えて頂きながら、観察を行いました。その他、知らなかった植物や、芳香がある植物についても教えて頂き、とても勉強になりました。また、かりんや、ぎんなん、なつはげ、豆柿、くりといった秋の実も拾うことができ、とても楽しい活動となりました。

参加したメンバーからの感想です。

- *朽木での春の植物観察会には行ったことがありましたが、秋冬は初めてだったので、四季の景色の違いがとても勉強になりました。今後も四季折々の植物観察を楽しみたいと思います。
- *植物観察で説明を聞いて歩くのは初めてだったので、とってもよかったです。
なつはげが日本のブルーベリーと言われていることを知りました。
- *初めての朽木の森でしたが、秋～初冬の森も気持ちがよかったです。草加先生や大槻先生の説明を聞きながら歩いて楽しかったです。
たくさんの実にも出会えました。初めてのぎんなん取り、おもしろかったです。
また季節を変えて、行きたいなあと思いました。





自然に生えた苔でリースを！



いろんな秋の実に出会えました！



ぎんなん拾いはとても楽しかった！

【活動予定】

■12月10日（日） 集合：10:00 薬草ピザ作り 琵琶湖博物館 実習室2



(19) 森人(もりひと)

【活動報告日の活動会員数(のべ) 10名】

グループ代表アドレス: hashi-morihito@biwahaku.jp

グループ担当職員: 林竜馬

【活動報告】

■10月7日（土）13:30~15:30 樹冠トレイルに設置する案内板の検討

場所: 生活実験工房、

参加者: (会員) 3名 (博物館職員) 林

分担したテーマのうちシイ・カシ類、クス・タブ類、鳥類、哺乳類および昆虫類の進捗状況などの確認と検討

■10月15日(土) 13:30~16:00 はしかけ登録講座参加場所: セミナー室

参加者: (会員) 1名

パワーポイント資料を用い、はしかけ登録講座参加者に森人活動の概要の説明。

* 2名の方に森人への会員登録をいただいた。

■11月11日(土) 場所: 生活実験工房

参加者: (会員) 6名 (博物館職員) 林

13:30~14:30 ①わくわく探検隊「秋色探しをしよう！」

参加者が屋外で落ち葉などを採集する際の補助と質問事項への対応を行った。

14:00~ 16:00 ②樹冠トレイルに設置する案内板の原稿案の検討

10月7日に引き続き分担したテーマのうちシカ・カシ類、クス・タブ類、鳥類、および昆虫類の進捗状況などの確認と検討を行った。

各自が作成した記載内容などについて意見を出し合った結果、内容がかなり明確になってきた。

その後、縄文弥生の森の樹冠トレイル工事現場を見学した。思った以上に樹木が切られ寂しいという感想が多かった。次回は、12月9日に検討を行う。

【活動予定】

■12月9日（土）トレイル案内板の原稿案検討 13:30~ 16:00

■12月23日（土）トレイル案内板の確定など 13:30~ 16:00 場所: 未定

★森が好きな人、植物や昆虫など生き物が好きな人、専門知識は不要です。はしかけ“森人”に参加しませんか
★参加を希望される方は 森人(もりひと) hashi-morihito@biwahaku.jp に連絡ください。



10月と11月のちこあその活動を報告します！

10月のちこあそは、芋堀りをしました。バンダナおじさんと一緒に、畑へ。手やスコップで土を掘るとそこには、大きなお芋さんがゴロゴロ。ウントコショ、ドッコイショとお母さんと歌いながら引っ張ると、赤いサツマイモが出てきました。ついでに小さなサツマイモも芋づる式に出てきたり、ミミズやオケラも顔を出して、発見がいっぱいでした。また隣の草の苗を引っ張ると、あら不思議、ピーナッツが出てきました。初めて落花生がなっているのを見たお母さんもいて、「落花生ってこんな風にできるんだ！」と驚きもありました。早速茹でた落花生をほおぼると、「みずみずしくて美味しい！」と。普段乾燥されたピーナッツを食べていたお母さんと子どもたちは、畑で掘りたての落花生に、自然の美味しさがたっぷり伝わったようです。

11月のちこあそは、焼き芋でした。そう10月に掘ったサツマイモ、それからサトイモをアルミホイルにくるんで、炭火の中へ。今回初めてたき火をして、子どもたちとお母さんは“火吹き竹”に初挑戦しました。吸い込まないようにして、フーフーと息を吹きかけると、炭火が赤く燃えるのが分かります。最近ではIHやエアコンばかりで、暮らしの中で火を見る機会がなくなりつつあるのですが、小さい時から火を扱って、その温かさ、怖さ、大事さを体験しておくことはとても大事ななあと感じました。

また、12月からリニューアルしてしますディスカバリールームへも遊びに行きました。何度かちこあそを通してディスカバで遊んでいる子どもたち。慣れもあって、展示物に触れながら言葉もたくさん出てきました。子どもたちにとって、1度だけでなく何度も体験して、心に収めていくことで学びが深くなっていくのかなあとも思いました。

※ ちこあその活動では、幼児の自然への関わりの研究もしており、この度共同研究者の神戸大学4年生上枝千明さんが、日本造園学会関西支部賞を受賞されました。何時間にも渡るちこあそ活動中の子どもたちや保護者の方の声を起して、テキストマイニングの手法で、自然との関わり、博物館の展示物との関わり、人との関わりとの関係性を明らかにしていく研究です。少しずつちこあその活動が、世の中に認められ、博物館の学びが広がっていくことを実感しています。

※ WEBで、活動の様子や次回のチラシを掲載しています。

<http://blog.goo.ne.jp/eco-macha> をご覧ください。

【活動報告】

	実施日	タイトル	内容
10月	10月18日(水) 10:00-14:00	だんだん自然が色づき、秋の気配です ちこあそ10月	ルーペでの自然観察、森の探検、工房の食体験など 参加者：子ども12名、保護者10名、学生1名 (会員：4名)
11月	11月20日(水) 10:00-14:00	木々の葉っぱも色づき始めました。秋ですよ。 ちこあそ11月	ルーペでの自然観察、森の探検、工房の食体験など 参加者：子ども15名、保護者13名、学生1名 (会員：4名)

【活動予定】

活動内容	実施日	タイトル	内容
12月	12月20日(水) 10:00-14:00	ちこあそ12月	ルーペでの自然観察、森の探検、工房の食体験など やさしい自然遊びを子どもや保護者の方とゆっくり、ボチボチします。
1月	1月17日(水) 10:00-14:00	ちこあそ1月	ルーペでの自然観察、森の探検、工房の食体験など やさしい自然遊びを子どもや保護者の方とゆっくり、ボチボチします。
2月	2月14日(水) 10:00-14:00	ちこあそ2月	ルーペでの自然観察、森の探検、工房の食体験など やさしい自然遊びを子どもや保護者の方とゆっくり、ボチボチします。
3月	3月14日(水) 10:00-14:00	ちこあそ3月	ルーペでの自然観察、森の探検、工房の食体験など やさしい自然遊びを子どもや保護者の方とゆっくり、ボチボチします。

※ 新しいメンバーも飛び入りも大募集中です。一緒に子ども達と遊びましょう！



ホオの葉っぱで、変身！



焼き芋です。火吹き竹でフーフーやっています。



ディスクバでも発見がいっぱいです。



(21) 近江 巡礼の歴史勉強会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 15名】

グループ代表アドレス：hashi-junrei-rekishi@biwahaku.jp

グループ担当職員：橋本道範、渡部圭一

【活動報告】

■9月26日(火) 13:30~16:00

場所：琵琶湖博物館会議室

参加者：9名

平成29年度年間活動計画に従い中間報告会と勉強会を実施した。議題は下記の4項目

1. 「近江 巡礼の歴史勉強会」の活動実績
2. 甲賀准四国霊場現状調査結果(番外も含めて98ヶ寺)地域別、宗派別の分類
3. 甲賀准四国設置由来と福野速男について
4. 琵琶湖博物館としての進め方について

今回は山伏や巡礼に興味をお持ちの学生2名が特別参加に参加。

- ・はしかけ新グループ発起趣旨書にも記載した内容についてまずは経緯から説明。
 - ・准四国設置由来に記載の88ヶ寺と番外10ヶ寺の訪問調査は7月24日に終了。
 - ・全景写真撮影と札所の石碑は全て調査できた。
 - ・准四国の霊場が宗派を超えた組織構成になっていることに驚きを感じる。
 - ・四国霊場と甲賀霊場の巡礼の順序についての決め方はどのようにしているのか？
 - ・四国と甲賀の組み合わせはお互いに了解がされて札所番号が決まったのか？
 - ・土砂を持帰るとき本場との話し合いなどの記録などの手がかかりがあるか。
- などの活発な意見が交わされ、今後の進め方として次の項目を実施することとなった。
- ・甲賀准四国霊場寺院への聞き取り調査を進める(掛額、大師像、朱印、案内記の有無)
 - ・該当寺院へのアンケート調査と結果のまとめ
 - ・巡礼の写しについての文献調査を進める
 - ・年内中に甲賀市三大寺の飯道寺(飯道山登山も含めて)今郷浄土寺訪問を計画する

■11月6日(月)

場所：水口町

参加者：3名

甲南町檜尾寺文珠院住職と面談し甲賀准四国について説明し、調査の協力を依頼した。年内に日程調整して寺院訪問を実施する約束を得た。

■11月13日(月)

場所：甲南町

参加者：3名

稗谷安楽寺を再訪して住職と面談。弘法大師像と朱印を発見した。



弘法大師像



朱印帳に押されている印



大正元年の安楽寺の朱印

安楽寺の弘法大師像は座高約20cmの金属製である。また、厨子もその他の寺院に比べると簡素な作りになっている。朱印は大正元年に押された安楽寺の朱印と同じものであることが確認できた。

【活動予定】

■年内中に甲賀市三大寺の飯道寺（飯道山登山も含めて）今郷浄土寺訪問を計画す

■甲南町檜尾寺文珠院の訪問調査

(福野憲二)



(22) 虫架け

【活動報告日の活動会員数(のべ) 11名】

グループ代表アドレス: hashi-mushikake@biwahaku.jp

グループ担当職員: 八尋克郎

【活動報告】

■11月3日(金) 10時~15時半 野外調査 場所：栗東 金勝の里

参加者：11名

栗東 金勝の里にて、冬眠を始めたオサムシの観察をしました。

気温の冷え込みがまだ十分でないせいか、オサムシの数はやや少なめでした。

冬眠中の虫の観察は、はじめての試みであったので、皆が楽しむことが出来ました。

冬眠中のスズメバチやカエルなどにも出会いました。チョウの卵探しも行い、少数ですが見る事ができました。

【活動予定】

■今後、1ヶ月に1回程度の野外調査、2ヶ月に1回程度の室内勉強会を予定しております。詳細は検討中です。

ご興味をお持ちの方は、グループ代表アドレスまでご連絡ください。



4. 生活実験工房からのお知らせ

※生活実験工房では、お餅つきをして収穫祭を祝いました。これからは冬の季節ですので、工房内にて“わら”を使っての作業を行います。行事も残り少なくなってきましたが、時間を見つけて体験活動へのご参加をよろしくお願いします。

担当職員：下松 孝秀

【活動予定】

- 12月23日（土祝） しめ縄づくり
- 2月11日（日） わら細工
- 3月10日（土） 一年間のふりかえり

*どなたでも参加できます。

*開催時間 : 10:00～12:00 (一般参加者の受付 : 9:30～)

*場所 : 全日程とも生活実験工房



※ しめ縄づくり、わら細工の作業時には、「マスク」をご持参ください。



5. その他の事項

(1) メールアドレスとホームページアドレスの変更について

びわ博の情報システム変更にもなっており、11月からメールアドレスとホームページアドレスが変更になりました。古いアドレスもしばらくは使えますが、年度末には使えなくなる予定です。

新しいメールアドレスは「***@biwahaku.jp」、ホームページアドレスは「<http://www.biwahaku.jp>」です。

なにか不備がありましたら、事務局までお問い合わせください。

(2) はしかけグループの活動に初めて参加する場合

ニューズレター発行後、活動日・活動場所が変更になる場合があります。グループの活動に初めて参加する時は、事前にはしかけグループ担当者に確認をお願いします。メールの場合は、グループ代表アドレスにご連絡ください。

(3) 名札（会員証）の写真について

名札（会員証）の写真を更新されたい方は、はしかけアドレスの hashi-adm@biwahaku.jp まで送って下さい。ただし、必ず本人確認ができるものに限りです。

(4) 会員証の携帯のお願い

はしかけ活動で来館する場合は、会員証を必ず持参してください。会員証を携帯せずに活動することは、原則的にできません。

(5) 活動中に事故が起こったら

加入者カードに書いてある連絡先（社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 TEL: 077-567-3920 FAX: 077-567-3923）へ、速やかに連絡してください（各人で連絡）。手続きには、グループ担当者（学芸員）の活動証明が必要ですから、各グループの担当者まで連絡してください。詳しくは、平成29年度の「ボランティア保険」パンフをご覧ください。パンフは、はしかけ事務局（博物館学芸事務室）にもあります。

